

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

本部・一部反動分子による職場攪乱行為を徹底粉砕!

=2月27日、11時50分。佐倉検修区 佐倉支部 佐倉支部 佐倉支部=

中村靖(全検修副議長)・武田(南検修議長)・五十嵐(南検修前議長)が
地本・支部・分科を無視して職場攪乱を策動!
—支部分科役員先頭に追及され、逃げ帰る—

二月二七日、一時五〇分頃、全国検修分科副議長中村、関東検修分科議長武田、関東検修分科前議長五十嵐と名のる三名が、地本・地本分科・支部への何んの連絡も承認もなく、無断で勝手に職場(佐倉検修区)に入りこみ、仕事をしている組合員に、直接「交流したい」「話したい」などを策動するという極めて許し難い事態が発生した。直ちに、これを摘発し、詰問した分科役員に対し、彼らは「関東検修分科委員会(水上)の資料を役員の人に渡しに来た」と答え、そのことを口実に「支部組合員と交流をしたい」と甘言をろうし、千葉地本を内部から破壊し、組合員断攻撃の策動を行ってきた。

これに対し、佐倉支部執行部は江沢君(地

支部防犯体制を強化し、一切の破壊策動うちくだけ!

第一〇二定中委(三・一・二)における『執行権停止攻撃』の布石ともいうべき、今回の攻撃をみると、われわれは、動労内革マルの狙いははっきりと見据える必要がある。

第一に、彼らは、千葉地本の一四〇〇組合員・家族の鉄の団結に恐怖し、内部からの組織断攻撃を策動せざるをえない。

第二に、わが千葉地本臨大で決定した「四つの大方針」の正しさは、いまや動労四万七千組合員の心をとらえ、動労の方針として広がっている。それに恐れている彼らは「四

本検修分科副会長)を中心に、毅然たる態度で『交流会』をキッパリ拒否し、弾劾し、追い返した。

われわれは、一二月以降の闘い、とりわけ、地本防衛そして支部防衛の闘いに決起したが、まさにそうした日常の闘いをもって、彼らのうす汚い陰謀を未然に封殺することに成功したといえる。われわれは、更に日常の監視体制を強化するとともに、地本防衛、支部防衛の重要性を再度確認し、今日、動労内革マルとそれに追いつく一握りの反動分子による佐倉支部組合員に対する攻撃、千葉地本への組織断・破壊攻撃に満腔の怒りをこめて弾劾し、これを粉砕しなければならない。

この方針」の圧殺のためにこのような具体的攻撃にエスカレートさせてきたのだ。

動労内革マル分子による千葉地本破壊・組織断策動は具体的実証をもって開始された。われわれは、機関決定はもとより、「地本も知らない」「支部も知らない」という全く不当・不法なやり口、機関無視組織運営無視の動労指導者にあるまじき行動・攻撃に真向から対決し、臨大方針「四つの基軸」への敵対、圧殺を許さず、彼らの狙いをカンパなきまでたたきつぶさなければならぬ。

佐倉支部が緊急抗議声明!

緊急抗議声明

二月二七日、動労検修分科役員を名のる三名が直接当支部の職場に入ってくるという自由しき事態がおこった。

われわれは、この機関無視無謀なやり方に対し怒りをもってはげしく弾劾するものである。

地本の承認すら全く行わず、あまつさえ支部の執行部を頭越しにするなど、機関上の手続きの一切を否定し、職場に入るといふ暴挙については、本部がなんと官おうと認められ

ない。われわれは、毅然とした態度で『交流会』を拒否してきた。

なぜすじを通して来られないのか、一方的なやり方についても問題がある。今までの問題に加えて、彼らの側からぶち破ってきたと考えざるをえない。

佐倉支部は、ジェット闘争のハンドルを握る立場から全組合員の総意を結集して今後も全ての闘いを闘い抜くことを明らかにしたい。

動労千葉地本 佐倉支部闘争委員会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!